

2024年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年8月9日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社イーエムシステムズ
 コード番号 4820 URL https://emsystems.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 國光 宏昌
 問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員 経営戦略室長 (氏名) 小林 大悟 TEL 06-6397-1888
 半期報告書提出予定日 2024年8月9日 配当支払開始予定日 2024年9月4日
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：有（アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2024年12月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年1月1日～2024年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期中間期	10,989	11.9	1,221	6.7	1,540	10.5	985	24.9
2023年12月期中間期	9,818	20.3	1,144	△15.9	1,394	△13.0	789	△27.6

(注) 包括利益 2024年12月期中間期 1,051百万円 (20.4%) 2023年12月期中間期 873百万円 (△23.0%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2024年12月期中間期	14.00	13.96
2023年12月期中間期	11.17	11.13

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年12月期中間期	29,282	20,404	69.4	289.93
2023年12月期	29,387	20,566	69.6	289.47

(参考) 自己資本 2024年12月期中間期 20,324百万円 2023年12月期 20,464百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年12月期	—	7.00	—	7.00	14.00
2024年12月期	—	9.00	—	—	—
2024年12月期(予想)	—	—	—	7.00	16.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年12月期の連結業績予想（2024年1月1日～2024年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	22,014	8.1	2,573	10.4	3,199	11.5	2,160	10.1	30.56

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 中間連結財務諸表及び主な注記(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(中間期)

2024年12月期中間期	74,514,800株	2023年12月期	74,514,800株
2024年12月期中間期	4,414,494株	2023年12月期	3,818,649株
2024年12月期中間期	70,405,644株	2023年12月期中間期	70,665,301株

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	
中間連結会計期間	6
中間連結包括利益計算書	
中間連結会計期間	6
(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におけるわが国の経済は、欧米を中心とした金融引き締め姿勢が継続し、為替相場円安の推移により、エネルギー・原材料価格の高止まりなど景気動向の先行きにつきましては、不透明な状況が続いております。

当社グループの主要取引先である医療業界におきましては、2024年は6年に一度の医療・介護・福祉サービス同時での報酬改定の年となり、実施時期についても、各種報酬改定の実施時期が年内に分散し、報酬点数の変更や算定方法が変更となる頻度が増加しております。また、報酬改定の方向性としては、医療介護従事者の人材確保や賃上げに向けた取組として診療報酬を引き上げる一方、医療DXによる効率化や適正化を通じて医療保険制度の安定性・持続可能性を向上させる方針になっております。

当社グループにおきましては、医療DXやイノベーションの推進等による質の高い医療の実現に向けて、オンライン資格確認システム運用対象範囲の拡大、電子処方箋の推進普及が見込まれる中、当社グループもオンライン資格確認システムの導入対応に続き、新規運用対象となりました医療扶助への対応、電子処方箋の導入設置を順次拡大し、当中間連結会計期間における導入設置済の件数が想定を上回ったものとなりました。

当社グループの各セグメント事業におきましては、前年度の組織編成を通じて従来の対面型中心の営業からインサイドセールスを強化したことに伴い、より効率的に案件の創出に繋がる営業活動が着実に進んでおり、また、サイトリニューアル、MAツール活用、動画、導入事例コンテンツ強化などデジタルマーケティングの活用により、潜在的な案件獲得も続けております。

一方、当社グループの当中間連結会計期間においては、前年度中に株式会社グッドサイクルシステムと株式会社ユニケソフトウェアリサーチをそれぞれ連結子会社化したことで売上高及び営業利益は前年同期比において増加したものの、2021年4月より導入が進んでおりましたオンライン資格確認システムの集中需要が一巡したことに加え、調剤システム事業における「うるう日」システム障害、医科システム事業におけるシステム障害への事後対応費用を計上したため、中間連結業績修正後の予想値に比べ、減少しました。

この結果、当中間連結会計期間の経営成績は、売上高10,989百万円（前年同期比11.9%増）、営業利益1,221百万円（同6.7%増）、経常利益1,540百万円（同10.5%増）、親会社株主に帰属する中間純利益985百万円（同24.9%増）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

(調剤システム事業)

調剤システム事業につきましては、オンライン資格確認システム集中需要が一巡しましたが、医療扶助及び電子処方箋の導入設置が拡大したことに加え、株式会社グッドサイクルシステムと株式会社ユニケソフトウェアリサーチが連結対象となったことにより、お客様数の増加に伴う課金売上高をはじめ、セグメントの売上高と営業利益はともに増加しました。

この結果、当中間連結会計期間の調剤システム事業は、売上高9,013百万円（前年同期比17.3%増）、営業利益1,684百万円（同19.8%増）となりました。

(医科システム事業)

医科システム事業につきましては、組織体制の再構築に加え、デジタルマーケティングを活用し幅広いアプローチを行っております。

「MAPs for CLINIC」の販売拡大によりセグメントの課金売上高が順調に伸びております。一方、オンライン資格確認システムの集中需要が一巡したことに加え、システム障害への事後対応費用を計上したことにより、営業損失が増加しました。

この結果、当中間連結会計期間の医科システム事業は、売上高1,198百万円（前年同期比21.6%減）、営業損失306百万円（同営業損失7百万円）となりました。

(介護/福祉システム事業)

介護/福祉システム事業につきましては、既存製品のリプレースによる保守売上高が減少しましたが、「MAPs for NURSING CARE」ライセンス数の増加による課金売上は堅調に推移しております。また、セグメント固定費用負担の改善により、営業損失が小幅に縮小しております。

この結果、当中間連結会計期間の介護/福祉システム事業は、売上高283百万円(前年同期比1.8%増)、営業損失229百万円(同営業損失285百万円)となりました。

(その他の事業)

その他の事業につきましては、チョキ株式会社のキャッシュレス事業の拡大に加え、株式会社ユニケソフトウェアリサーチの人材派遣事業が貢献したことにより、売上高は増加し、セグメントの全体収支改善に繋がり、営業利益も増加しました。

この結果、当中間連結会計期間のその他の事業は、売上高572百万円(前年同期比48.3%増)、営業利益40百万円(同営業利益5百万円)となりました。

(上記セグメント別の売上高及び営業利益(損失)は、セグメント間の内部取引消去前の金額であります。)

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当中間連結会計期間末における流動資産は15,214百万円となり、前連結会計年度末に比べ414百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が48百万円増加し、受取手形及び売掛金が320百万円増加したことによるものであります。固定資産は14,067百万円となり、前連結会計年度末に比べ519百万円減少いたしました。これは主に、償却に伴いソフトウェアが294百万円、のれんが112百万円、投資不動産が98百万円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は29,282百万円となり、前連結会計年度末に比べ104百万円減少いたしました。

(負債)

当中間連結会計期間末における流動負債は6,247百万円となり、前連結会計年度末に比べ629百万円増加いたしました。これは主に、1年内返済予定の長期借入金が109百万円減少したものの、未払金が181百万円、未払法人税等が329百万円、流動負債のその他が133百万円それぞれ増加したことによるものであります。固定負債は2,630百万円となり、前連結会計年度末に比べ572百万円減少いたしました。これは主に、長期借入金が541百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は8,878百万円となり、前連結会計年度末に比べ57百万円増加いたしました。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産は20,404百万円となり、前連結会計年度末に比べ161百万円減少いたしました。これは主に、利益剰余金が491百万円増加し、自己株式が407百万円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は69.4%(前連結会計年度末は69.6%)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年12月期通期の連結業績予想については、2024年2月14日の「2023年12月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (2024年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,441	9,490
受取手形及び売掛金	3,082	3,403
商品及び製品	1,136	1,123
その他	1,139	1,200
貸倒引当金	△0	△1
流動資産合計	14,800	15,214
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物 (純額)	575	574
土地	474	474
リース資産 (純額)	65	48
その他 (純額)	214	338
有形固定資産合計	1,330	1,436
無形固定資産		
ソフトウェア	2,296	2,001
ソフトウェア仮勘定	164	202
のれん	1,475	1,362
その他	1,250	1,215
無形固定資産合計	5,186	4,782
投資その他の資産		
投資有価証券	962	928
投資不動産 (純額)	6,393	6,294
その他	725	637
貸倒引当金	△11	△12
投資その他の資産合計	8,070	7,848
固定資産合計	14,587	14,067
資産合計	29,387	29,282

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (2024年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,121	1,074
未払金	997	1,179
1年内返済予定の長期借入金	966	857
リース債務	36	37
未払法人税等	241	570
賞与引当金	348	429
契約負債	877	936
その他	1,028	1,162
流動負債合計	5,618	6,247
固定負債		
長期借入金	1,527	986
リース債務	37	3
退職給付に係る負債	135	123
製品保証引当金	3	2
長期未払金	396	396
長期預り保証金	763	789
その他	339	329
固定負債合計	3,202	2,630
負債合計	8,821	8,878
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,785	2,785
資本剰余金	3,376	3,104
利益剰余金	16,101	16,592
自己株式	△1,990	△2,397
株主資本合計	20,272	20,083
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	85	60
為替換算調整勘定	106	179
その他の包括利益累計額合計	191	240
新株予約権	56	55
非支配株主持分	45	24
純資産合計	20,566	20,404
負債純資産合計	29,387	29,282

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
 (中間連結損益計算書)
 (中間連結会計期間)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
売上高	9,818	10,989
売上原価	4,960	5,427
売上総利益	4,858	5,561
販売費及び一般管理費	3,713	4,340
営業利益	1,144	1,221
営業外収益		
受取利息	3	6
不動産賃貸収入	484	527
その他	14	20
営業外収益合計	502	553
営業外費用		
支払利息	4	5
不動産賃貸費用	210	196
持分法による投資損失	35	-
その他	3	31
営業外費用合計	253	233
経常利益	1,394	1,540
特別損失		
段階取得に係る差損	140	-
固定資産除却損	9	47
特別損失合計	150	47
税金等調整前中間純利益	1,244	1,492
法人税等	459	489
中間純利益	784	1,003
非支配株主に帰属する中間純利益又は非支配株主に 帰属する中間純損失(△)	△4	17
親会社株主に帰属する中間純利益	789	985

(中間連結包括利益計算書)
 (中間連結会計期間)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
中間純利益	784	1,003
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	62	△24
為替換算調整勘定	23	73
退職給付に係る調整額	3	-
その他の包括利益合計	88	48
中間包括利益	873	1,051
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	878	1,034
非支配株主に係る中間包括利益	△4	17

(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自2023年1月1日 至2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額
	調剤システム 事業	医科システム 事業	介護/福祉シ ステム事業	その他の 事業	計		
売上高							
初期売上	4,077	995	20	—	5,093	—	5,093
課金売上	2,323	412	112	—	2,849	—	2,849
サブライ売上	885	28	—	—	914	—	914
保守売上	386	92	145	—	624	—	624
その他の事業売上	—	—	—	337	337	—	337
顧客との契約から 生じる収益	7,672	1,529	278	337	9,818	—	9,818
外部顧客への売上高	7,672	1,529	278	337	9,818	—	9,818
セグメント間の内部 売上高又は振替高	9	—	—	48	58	△58	—
計	7,681	1,529	278	386	9,876	△58	9,818
セグメント利益又は損 失(△) (注) 2	1,405	△7	△285	5	1,117	27	1,144

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、主にセグメント間取引消去等であります。

2. セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「調剤システム事業」セグメントにおいて、株式会社グッドサイクルシステムの株式を追加取得し、同社を連結子会社化したことにより、当中間連結会計期間にのれんが532百万円発生しています。

また、株式会社ユニケソフトウエアリサーチ及び同社の管理目的会社である株式会社Launchpad13の株式取得により、当中間連結会計期間にのれんが1,733百万円発生しています。

なお、のれんの金額1,733百万円は、当中間連結会計期間末においては、取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当中間連結会計期間 (自2024年1月1日 至2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額
	調剤システム 事業	医科システム 事業	介護/福祉シ ステム事業	その他の 事業	計		
売上高							
初期売上	4,065	664	37	—	4,766	—	4,766
課金売上	3,429	443	124	—	3,997	—	3,997
サプライ売上	1,033	25	0	—	1,058	—	1,058
保守売上	476	65	121	—	664	—	664
その他の事業売上	—	—	—	502	502	—	502
顧客との契約から 生じる収益	9,004	1,198	283	502	10,989	—	10,989
外部顧客への売上高	9,004	1,198	283	502	10,989	—	10,989
セグメント間の内部 売上高又は振替高	9	—	—	70	79	△79	—
計	9,013	1,198	283	572	11,069	△79	10,989
セグメント利益又は損 失 (△) (注) 2	1,684	△306	△229	40	1,188	32	1,221

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、主にセグメント間取引消去等であります。

2. セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。